セグメント別ハイライト

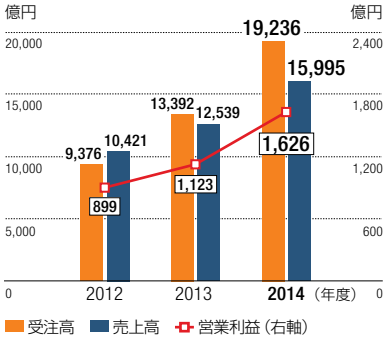
エネルギー・環境

エネルギー・環境分野の
社会インフラでの最適ソリューションを提供

主な事業

- 火力発電システム事業
- 原子力事業
- 化学プラント・社会インフラ事業
- 再生エネルギー事業
- 舶用機械・エンジン事業

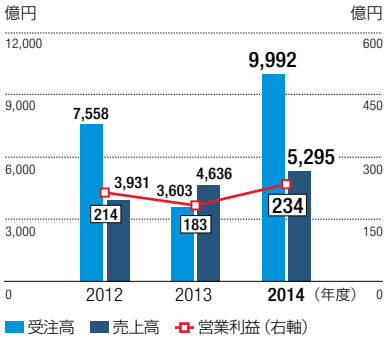
受注高／売上高／営業利益



交通・輸送

陸・海・空の先進的
交通・輸送システムを提供

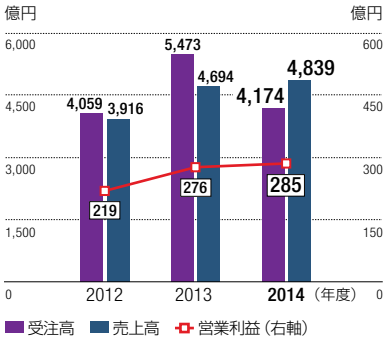
- 船舶・海洋事業
- 交通システム事業
- 民間航空機事業



防衛・宇宙

陸・海・空・宇宙の統合防衛システムと
宇宙関連サービスを提供

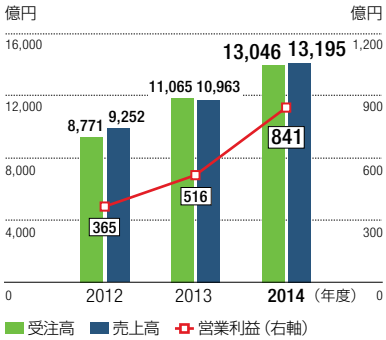
- 防衛機器事業
- 宇宙機器事業



機械・設備システム

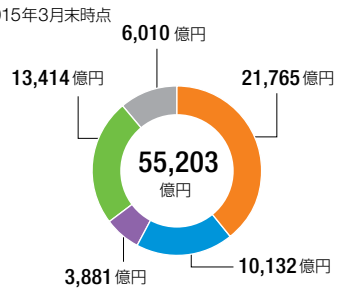
基盤産業を支える
高性能製品、高品位サービスを提供

- エンジン事業
- 自動車部品事業
- 冷熱事業
- コンプレッサ事業
- 製鉄機械事業
- 物流機器事業
- 環境設備事業
- 機械・設備その他事業



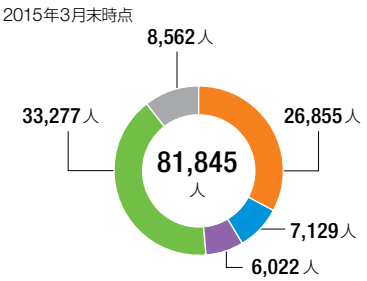
総資産

2015年3月末時点



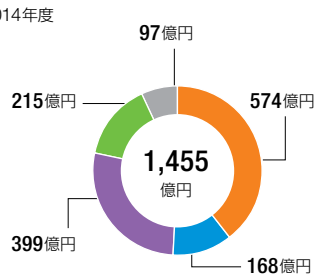
従業員数

2015年3月末時点



研究開発費

2014年度



エネルギー・環境　交通・輸送　防衛・宇宙　機械・設備システム　その他、消去・共通

※ 受託研究等の費用680億円を含む

2014年度の概況と2012事業計画の振り返り

連結受注高は（株）日立製作所との火力発電システム事業の統合効果もあり、大型・産業用石炭火力発電プラント等を中心として受注が増加したことにより、前年度を大幅に上回る19,236億円となりました。連結売上高は火力事業の統合効果等により15,995億円と前年度から増加し、連結営業利益においてはアフターサービス事業の伸長や化学プラントの採算改善等も寄与し、前年度を大幅に上回る1,626億円となりました。

2012事業計画期間中は、ドメイン発足による人材交流や業務集約に加え、火力発電システム事業の統合やプラット・アンド・ホイットニー・パワーシステムズ（Pratt & Whitney Power Systems）の買収などのM&Aを通じて、強みとシナジーの発揮に注力し、グローバル展開を加速させると同時に、不採算事業からの撤退も進めました。この結果、連結業績は2012年度から、受注高は約2.0倍、売上高は約1.5倍、営業利益は約1.8倍に伸長しました。

ドーハメトロ等の大型案件を受注したほか、MRJや商船等の受注も増加した結果、連結受注高は前年度を大きく上回る9,992億円となりました。連結売上高は、民間航空機等を中心に増加し、前年度を上回る5,295億円となりました。連結営業利益は、MRJの研究開発費が増加したものの、売上高増加や円安効果等により、前年度を上回る234億円となりました。

2012事業計画においては、民間航空機事業を強化して成長軌道に乗せたほか、交通システムでは海外大型案件を受注し、事業を拡大させました。同時に、MRJの開発・生産体制の整備と見直しに注力し、商船事業の構造改革と客船ビジネスの再構築に着手しました。また、陸・海・空の3事業領域とドメインコーポレートの融合により、産官学連携やファイナンス・技術開発等でドメインシナジーを進展させました。この結果、連結業績は2012年度から、受注高と売上高は約1.3倍、営業利益は約1.1倍に伸長しました。

連結受注高は、前年度に大型受注のあった防衛航空機、艦艇等が減少したことにより、前年度を下回る4,174億円となりました。連結売上高は、H-ⅡAロケットの打上げなど宇宙分野において増加し、前年度を上回る4,839億円となりました。この結果、連結営業利益も増加し、285億円となりました。

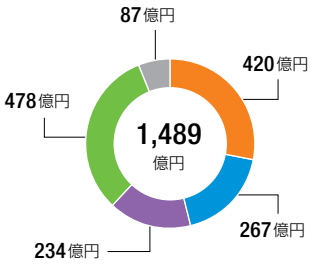
2012事業計画においては、防衛事業では陸・海・空の事業部門にまたがるシナジーを活かした製品やサービスの開発に注力しました。宇宙事業ではH-ⅡA/H-ⅡBロケット打上げを26回連続で成功させ、その高い信頼性と品質を活かして商業衛星の打上げ輸送サービスの営業活動を推進し、海外の2社から新規受注を獲得しました。また、プライムコントラクターとして新型基幹ロケットH3の開発にも着手しました。2012年度と比較した連結業績は、受注高は微増にとどまったものの、売上高は約1.2倍、営業利益は約1.3倍に伸長しました。

連結受注高は、日本輸送機（株）と統合したフォークリフト事業およびシーメンス社（Siemens AG）と統合した製鉄機械事業の増加に加え、欧州・中国向けのターボチャージャと空調機の増加、海外グループ会社の決算期変更の影響※等により、前年度を上回る13,046億円となりました。連結売上高はターボチャージャ、空調機、フォークリフト等の増加により13,195億円に増加し、連結営業利益はコンプレッサの採算改善も寄与し、前年度を大きく上回る841億円となりました。

2012事業計画においては、ドメイン制移行により事業本部の統合とSBU数の削減を行い、各SBUの特性を活かす最適事業運営に努めました。また、生産、調達等の横串組織としてのドメイン共通機能を強化し、収益力の改善を図りました。さらに事業面ではターボチャージャ、空調機の海外販売が拡大した等の結果、連結業績は2012年度から、受注高は約1.5倍、売上高は約1.4倍、営業利益は約2.3倍と大きく伸長しました。

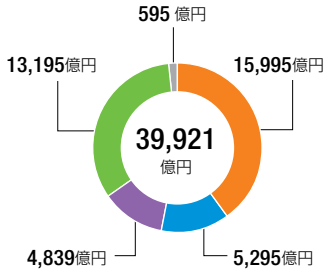
※ 一部の海外グループ会社の決算期を12月末から翌年の3月末に変更したため、15ヵ月分の業績を2014年度決算に計上しています。

設備投資額
2014年度

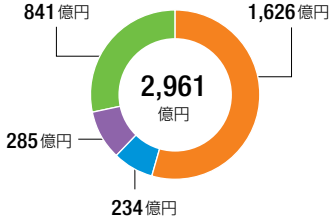


※ 有形固定資産の計上ベース

売上高
2014年度



営業利益
2014年度



※ その他、消去・共通 …△28億円